

国語教育 208

☆ 東京都小学校国語教育研究会・機関誌 2015. 11

国語科における単元づくり

副会長 朴木 一史

今夏に行われた、九回目となる「まなび塾」。猛暑の中、若手教員を中心に二百名を超える受講者を数え、活気と熱気に溢れた二十講座が実施された。

本会顧問・参与の先生方十七名を講師に迎えての単元づくりや指導法についての演習や講義、本会部会員による実践報告は、参加された先生方にとって、児童が主体的意欲的に学び、確かな言葉の力を実生活に生かすための授業改善に資する実りある一日となった。「まなび塾」の講座を参観し、そこで示された資料を改めて拝読させていただくと、二十講座にすべてに共通する単元づくりについての基本的な考え方を学ぶことができる。

二十講座から学ぶ単元づくりは、整理すると次の通りである。

まず、指導する子供たちの言語生活、言語能力の状況を正しく捉えることである。児童の実態の確実な把握である。児童の実態は、○意欲・関心の実態、○能力の実態、○経験の実態、○日常の言語生活の実態など、観点を設定して幅広い視点から分析的に捉える必要がある。(児童の実態把握)

次に、把握した児童の実態に基づき、学習指導要領を踏まえて身に付けたい言葉の力を見極め、重点的に指導する事項を確定して単元の目標を設定する。(学習指導要領を踏まえる)

それから、目標達成にふさわしい素材を見付けて、そのまま使えるのか、一部を使うのか、加工して使うのか、複数を組み合わせ使用のかを判断して学習材として練り上げる。(学習材化する)

さらに、どんな段取りで、どんな構成で学習を行うのか、学習過程を明確化して、単元を貫いて言語活動を設定する。(単元化する)

このようにしてつくられた単元は、児童の主体的な思考・表現が発動され、協働的に課題解決が図られていく。

また、児童が何を学んだのか、実感を伴って言葉の力を身に付けることができる。さらに、単元学習を通して身に付けた力は、実生活に生きて働く力となっていく。

本会は、今年度新たな研究主題のもと、すでに各部会において精力的な研究が進められている。単元づくりは研究の中核となっていく。充実した研究のもと大きな成果を期待したい。

(葛飾区立清和小学校長)

平成二十七年年度
各部研究活動

話すこと・聞くこと部

自己充実を目指し、主体的・協働的に話し合う活動を通して、**思考力・表現力及び探究力を育てる**

研究部長 前田佐和子

一 研究主題について

大会テーマ『未来を拓く』とは、変化の激しいこれからの社会において、自らのよさを発揮しながらたくましく生きていくことに他ならない。国語教育はそのためのツールとなる言葉の力を、一人一人の児童にしっかりと身につけさせる責務がある。

そのために、話すこと聞くことの領域において、①自ら課題を発見し解決しようとする姿勢（探究力）と②立場や考えの異なる相手の考えを尊重しながら関わり合い、自己充実を目指しよりよいものへと高め合う相互作用的な「話し合う力」（思考力・表現力）が必要であると考え、『自己充実を目指し、

主体的・協働的に話し合う活動を通して思考力・表現力及び探究力を育てる』を部会研究主題とした。以下の視点で研究を進めていく。

二 研究の内容

- 研究の視点は三つ。
- (1) 課題意識を大切にしながら単元の開発と学習過程の工夫
- ① 話題設定の工夫
- ② 単元の流れの工夫
- (2) 付きたい力を明確にした指導の工夫

① 付きたい力の明確化

② 指導の手立て

(3) 評価の工夫

① 評価補助簿

② 自己評価・相互評価

③ 指導と評価の一体化

三 研究組織

部長 前田佐和子(杉並・四宮小)

副部長 山口 麻衣(立川・第六小)

同 石川 加子(江東・枝川小)

同 小野江 隆

同 石井 正美(大田・矢口西小)

世話人

全体 江口久美子(練馬・高松小)

全体 大村 幸子(武蔵野・桜野小)

低学年 君塚千恵子(葛飾・奥戸小)

中学年 朽木 良美(墨田・第四吾嬬小)

高学年 北川 雅浩(葛飾・中之台小)

四 研究方法

全体会及び低・中・高学年分科会を設定し、分科会ごとに事前授業研究会を行う。研究大会において、全体提案、授業及び分科会提案を行う。

五 年間指導講師

河村 静枝先生

廣田 経夫先生

邑上 裕子先生

六 研究計画

○5・7 (杉並・高井戸小) 研究委員会総会・研究組織

○5・11 (杉並・杉並第一小) 研究主題・指導の重点検討

○5・29 (杉並・杉並第一小) 研究計画・研究内容の検討

○6・25 (杉並・杉並第十小) 基礎研究

○7・3 (杉並・杉並第一小) 研究主題・研究内容の検討

○8月

各分科会指導案検討

○8・24 (杉並・杉並第一小) 指導案検討

○9・18 (杉並・杉並第十小) 指導案検討

○10・5 小研 授業者 丸山秀光 (新宿・富久小・3年)

提案 朽木良美(墨田・第四吾嬬小)

○10・9 (杉並・杉並第一小) 指導案検討

○10・20部内研 授業者 村松千恵子 (世田谷・尾山台小・2年)

提案 君塚千恵子(葛飾・奥戸小)

○11・11 (杉並・杉並第一小) 指導案検討

○11・27部内研 授業者 久保美里 (豊島・富士見台小・6年)

提案 北川 雅浩(葛飾・中之台小)

○12・11 (杉並・杉並第一小) 研究発表内容検討・紀要検討

○1・12 (杉並・杉並第十小) 大会指導案検討・発表資料作成

○2・9 (杉並・杉並第一小) 大会準備・資料作成

○2・18 (杉並・高井戸小) 大会前日準備・リハーサル

○2・19 (杉並・高井戸小) 都小国研 研究大会

授業者

2年 芳賀菊恵(大田・糎谷小)

2年 関口友子(墨田・第三寺島小)

3年 熊本温子(墨田・両国小)

3年 中野 悟(世田谷・代沢小)

6年 早坂京乃(江戸川・大杉東小)

○3・1 (杉並・杉並第一小) 成果と課題・次年度に向けて

読むこと部

実生活に生きる言葉の力を育む
読むことの活動を通して、思考力
表現力及び探究力を育てる

読むこと部 研究部長 佐々木直子

一 研究主題について

今年度は、新たな研究主題を掲げ、新学習指導要領改訂に向けて今後、求められる読むことの能力を見定めた実践を目指す。

これからの時代に求められる読むことの能力とは、実生活に生きて働くものでなければならぬ。具体的には、多様な文章を目的に応じて読みとる力、文章の表現方法を考えて読む力、文章の論理を読みとる力、叙述や描写を想像し、味わって読む力、課題解決のために読む力と捉える。

これらの能力を身に付けさせる過程において、主体的・協働的な学びの場を重視し、意図的・計画的に思考力・表現力及び探究力を育成する単元の指導過程を組むことが重要である。

このようにして、一人一人の児童が、身に付けた読むことの能力を様々な実生活の場面で生かし、探究心をもって、自らの考えを広

げ、深めたり、新たな考えを生み出したりすることのできる児童を育む実践を目指す。

二 研究の内容

今年度は、次のような内容で研究を推進する。

① 目指す児童像の設定

・読むことにおける思考力・表現力及び探究力を明らかにして、育てたい言語能力と具体的な児童の姿を明確にする。

② 単元を貫く言語活動の工夫

・児童の課題意識を持統できる単元を開発する。

③ 習得・活用及び探究を意識した学習過程の工夫

・主体的・協働的な学びを展開しながら、習得した言語能力を活用・探究させる学習過程を組む。

④ 思考力・表現力及び探究力を育てる指導と評価の工夫

・具体的な評価規準と児童の学びの姿を明確にし、個に応じた指導内容を予め準備して単元の指導を行う。

三 研究方法

全体会及び低・中・高学年分科会を設定し、研究大会に向け、講演会及び三回の授業研究を行う。また、必要に応じて、部長・副部

長に加えて、研究主任・研究副主任・全体庶務・世話人による研究部会を開催して研究を深める。

講師の指導を頂ける事前授業は、三回のみであるが、その他の三学年分(二・三・五年)の事前授業も、今年度中に各分科会を中心として実践しておき、今年度と来年度の大会授業の充実を図る。

四 研究組織

部長 佐々木直子(目黒・中根小)
副部長 大久保句子(新宿・花園小)
守田由紀子(品川・京陽小)
小幡 育代(足立・千寿双葉小)
伊藤 聡(目黒・八雲小)

研究主任 海沼 秀樹(板橋・板橋第四小)

研究副主任 田村香代子(杉並・高井戸小)
清家未寿貴(杉並・杉並第一小)
吉田 未希(江戸川・平井小)

全体庶務 江崎 一紀(足立・栗原北小)
村松由紀子(中野・鷲宮小)
西田 太郎(品川・台場小)

世話人 小澤はなみ(中央・佃島小)
中 山本 友美(足立・保木間小)

高 飯田 学(江東第五砂町小)

五 研究計画

○5・7 研究委員会総会・研究組織
○6・29 杉並・高井戸小
研究主題、研究内容・方法の検討

○7・13 目黒・中根小

理論研究・講演会(岸本修二先生)
○7・8月中 各分科会の授業研究
○9・24 各分科会の取り組み報告
○10・26 新宿・落合第一小
低学年分科会研究授業 一年
授業者 福山 貴司
○11・13 目黒・八雲小
高学年分科会研究授業 六年
(小研) 授業者 大久保 啓
講師 藤井 治先生
○11・30 杉並・荻窪小
中学年分科会研究授業 四年
授業者 羽田 美砂
講師 岸本修二先生
○1月～2月 研究大会事前研究・
大会授業・発表内容の検討
○2・18 杉並・高井戸小
研究発表準備・リハーサル
○2・19 研究大会 杉並・高井戸小
授業者 一年 荒川区立汐入東小学校
山内 由希
二年 調布市立緑ヶ丘小学校
小黒 靖子
四年 杉並区立高井戸小学校
林 真弓
五年 立川市立第二小学校
大中 潤子
六年 杉並区立高井戸小学校
田村香代子

書くこと部

実の場で活用する、主体的・協働的な書く活動を通して、思考力・表現力及び探究力を育てる

研究部長 早坂ひとみ

一 研究主題について

書くことは自己の思いを表現することそのものである。一人一人の児童が、誰に何を伝えるために書くのかという意識を明確にもち、書き進め、最終的に「書いてよかった」と思える学習活動は、実の場に生きる力を身に付け、思考力・表現力、探究力を育てるために有効である。また、取材・選材・構成・記述・推敲の各過程で他者と交流することで、自他の良さに気づき、表現内容や伝える技術も学び合える。以上のことから、児童が主体的・協働的に学びながら書く力を確実に身に付けさせたいと考え、研究主題を設定した。

二 研究の内容

◇思考力・表現力を育てるために
①単元開発

・学習材の工夫
・例文の工夫

・学習シートの工夫
②日常的な言語活動

・語彙を増やす工夫・読書の推進
③評価規準の明確化

・個に応じた指導と評価
・教師による評価

◇探究力を育てるために
①児童の興味・関心、課題を生かした言語活動

②学習過程の工夫

・単元を貫く言語活動
・0次の設定

・往復できる柔軟な学習過程
・実の場における活用

・実感としての自己評価
三 研究組織

部長 早坂ひとみ(江東・扇橋小)
副部長 林 嘉瑞子(渋谷・幡代小)

同 小池 隆一(中野・桃花小)
同 増田 好範(足立・千寿本町小)

同 深津 郁子(江戸川・平井東小)
同 豊田 純子(江戸川・江戸川小)

世話人 全体 井上 陽童(立川・新生小)
全体 高橋 桃子(江東・扇橋小)

低学年 清水 絵里(北・稲田小)
中学年 松江 宣彦(中野・白桜小)

高学年 庶務 松江 宣彦(中野・白桜小)

全体 寛 理沙子(学大附小金井小)
低学年 三枝 美絵(羽村・松林小)

中学年 松村 優子(板橋・桜川小)
高学年 藤村由紀子(江東・東陽小)

会 計 吉田 知美(渋谷・本町学園小)
四 研究方法

全体会及び低・中・高学年分科会を設定し、分科会ごとに事前授業研究会を行う。研究大会において、全体提案、授業及び分科会提案を行う。

五 年間指導講師

大熊 徹 先生
成家 巨宏 先生

六 研究計画

○5・7 (杉並・高井戸小)
研究委員総会

○5・28 (江東・扇橋小)
研究主題・研究計画の検討

○6・18 (江東・扇橋小)
研究計画・研究内容の検討

○7・25 (杉並・杉一小)
まなび塾

提案 藤村由紀子(江東・東陽小)
笹木 望美(渋谷・幡代小)

○8・4 (江東・扇橋小)
研究授業事前研究(分科会)

講演 大熊 徹 先生
・書くこと部の基本的な理念

・今年度の研究主題と書くこと部の視点について

・各分科会授業計画について

○10・6 (渋谷・幡代小)
中学年分科会研究授業

授業者 三学年 尾久由有子
○10・15 (江東・東陽小)

高学年分科会研究授業
授業者 五学年 藤村由紀子

○10・30 (台東・黒門小)
高学年分科会研究授業

授業者 六学年 椎名 景子
○11・16 (台東・谷中小)

低学年分科会研究授業(小研)
授業者 一学年 矢作 朋子

○1・5 2・12 (江東・扇橋小)
大会指導案検討・発表資料作成

○2・18 (杉並・高井戸小)
大会前日準備・リハーサル

○2・19 (杉並・高井戸小)
研究大会

授業者
・授業者

一学年 三枝美絵(羽村・松林小)
四学年 石野夏子(台東馬込第三小)

五学年 吉田知美(渋谷本町学園小)
六学年 安原功将(杉並・高井戸小)

提案
全体 井上陽童(立川・新生小)

低学年 高橋桃子(江東・扇橋小)
中学年 清水絵里(北・稲田小)

高学年 松江宣彦(中野・白桜小)
○3・3 (江東・扇橋小)
成果と課題・次年度に向けて

言語文化部

言語文化に親しみ、自ら表現し、学び合う活動を通して、思考力・表現力及び探究力を育てる

研究部長 篠原 敦子

一 研究主題について

言語文化部は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容に関わる研究を担っている。

現行の学習指導要領が告示された平成二十年度からは、「伝統的な言語文化」に関する指導に関して、学習材の開発・学習指導の工夫・評価の在り方について研究授業を通じて研究を積み重ねてきた。

今年度、本会研究主題が新しくなり、それに伴い、言語文化部の主題も刷新した。本会研究主題の「未来を拓く」を言語文化部は、「言語文化に出会い、言語文化や言葉と戯れ親しむこと」で、それらの良さに気付き、今後も尊重していただくという思いや我が国の伝統文化を継承し、新たな創造へとつないでいく態度を育てる」ことであるとした。また、副主題の「思考力・表現力及び探究力」を育てていく

ためには、児童が主体的にそして協働的に学習に取り組むことが欠かせない。そのため、「自ら表現し、学び合う活動」を通して、これまでの研究の成果を基盤に、言語文化に親しむ児童の姿を明確にし、思考力・表現力及び探究力を育てるために、学習展開をどう工夫するのか等について、研究を深めていく。

また、言語文化部は、学習材の開発、単元化をどの年度においても提案してきており、今年度も児童の実生活に根ざした学習材の開発を合わせて研究の中核に据えて研究を進めていく。

二 研究の内容

○ 伝統的な言語文化に親しむための学習材の開発と単元開発

児童の身の回りには、様々な言語文化が根付いている。児童の言語生活及び言語現象そのもの等も学びの対象であるという考えに立ち、これらの中から学習材を発掘していく。また、必然性のある言語活動が展開されるよう、国語単元学習として単元化していく。

三 研究組織

部長 篠原 敦子(港・高輪台小)
副部長 平林久美子(墨田・曳舟小)

和田 京子(港・南山小)	12・8	大会授業事前研究
河村 祐好(武蔵野・第四小)	1・8	大会授業事前研究・研究発表内容検討
世話人 小木 和美(渋谷・本町学園小)	2・8	大会授業指導案・資料の作成
宇賀村康子(文京・誠之小)	2・8	岡崎智子主任教諭
岡崎 智子(杉並・八成小)	2・18	大会前日準備
庶務 山下 美香(学大附・大泉小)	2・19	都小国研研究大会
松波 智恵(豊島・豊成小)	2・26	今年度の成果と課題
会計 端山 桃子(世田谷・武蔵丘小)	2・26	次年度の研究計画
本村 文香(三鷹・大沢台小)		講師 今村久二先生
四 研究計画		
5・7 研究委員総会		研究大会授業者
5・22 研究主題検討	一年	河野久美子主任教諭
6・18 組織・計画等検討		(杉並区立和田小学校)
7・27 夏の研修会Ⅰ		今泉万里恵主任教諭
7・28 講師 平林久美子		(杉並区立高井戸小学校)
7・28 夏の一日研修会Ⅱ	四年	本村文香主任教諭
9・8 講師 今村久二先生		(三鷹市立大沢台小学校)
9・8 研究授業事前研究	六年	市毛大子主幹教諭
9・28 (小研) 高学年研究授業		(新宿区立戸山小学校)
(学芸大学附属大泉小学校)		全体提案
6年・山下美香教諭		小木和美主任教諭
講師 今村久二先生		(渋谷区渋谷本町学園小学校)
10・30 中学年研究授業		宇賀村康子指導教諭
(渋谷区立渋谷本町学園小学校)		(文京区立誠之小学校)
3年・小木和美主任教諭		岡崎智子主任教諭
講師 今村久二先生		(杉並区立八成小学校)
11・17 低学年研究授業		
(町田市立忠生小学校)		
部長 篠原 敦子(港・高輪台小)		
副部長 平林久美子(墨田・曳舟小)		
講師 今村久二先生		

平成二十七年

まなび塾活動報告

副会長 鈴木 知徳

一 まなび塾の趣旨

国語科指導の基礎基本を学ぶ研修である。児童の主體的な学びを引き出す授業づくりのため、具体的な教材開発や指導の工夫など実践に生かせる研修を目指している。そのため、講義だけでなく、実践的な演習や授業実践の紹介を通して、指導方法の悩みに応えるなど参加者の自主的な学びを大切にしている。

二 本年度の状況

今年度で九回目となる東京都小
学校国語教育研究会「まなび塾」
は、二百三十五名の参加者を迎え、
七月二十五日（土）、杉並区立杉
並第一小学校で開催された。

当日は、九時四十五分から校内
放送による全体会が行われ、講師
紹介に続いて、まなび塾の趣旨説
明や当日の流れ等事務連絡があつ
た。十時からコースごとに午前の
部の研修が行われた。今年度も午
前と午後の研修時間をそれぞれ二

時間半とした。

講師には、都小国研OBをお招
きして、基礎基本となる指導とと
もに、新しい考え方を盛り込んだ
指導法等をご指導いただいた。ま
た、講義、各部からの実践報告、
演習などに加え、受講者の討議や
発表が行われ、充実した研修と
なった。

今年度も参加者の要望を受け、
午前と午後の内容を異なる領域で
組み合わせる実施し、研修の幅が
広がるようにした。

三 各コース内容及び講師

A (午前) 音読・朗読指導を取り
入れた読むことの単元の工夫

都小国研顧問 宮島雄一先生

A (午後) 伝統的な言語文化を楽
しむ、古典に親しむ指導の工夫

都小国研顧問 成家巨宏先生

B (午前) 伝統的な言語文化を楽
しむ、古典に親しむ指導の工夫

都小国研顧問 今村久二先生

B (午後) グループ・全体の話し
合いの力を付ける指導

都小国研参与 井上紋子先生

都小国研参与 網 淑子先生

C (午前) 話すこと・聞くことの
題材や単元づくり

都小国研参与 廣田経夫先生

C (午後) 論理的に考え表現する
力を育てる単元づくりや指導の
工夫

都小国研顧問 村越 正則先生

D (午前) 話合いの力を付ける指
導(受ける・つなげる・まとめる)

都小国研参与 井上 紋子先生

都小国研参与 網 淑子先生

D (午後) 言葉の力を磨く俳句や
短歌・詩の指導の進め方

都小国研参与 小林 一朗先生

E (午前) 読むことにおける板書
やノート指導の工夫

都小国研参与 小林 一朗先生

E (午後) 話すこと・聞くことの
題材や単元づくり

都小国研参与 河村 静枝先生

F (午前) 発達段階に応じた書く
ことの題材と指導の工夫

都小国研顧問 邑上 裕子先生

F (午後) 文学的文章や説明的文
章の教材研究の進め方と指導的
工夫

都小国研参与 五十井美知子先生

G (午前) 対話や話合い、スピー
チやプレゼンテーションの指導
の工夫

都小国研顧問 功刀 道子先生

G (午後) 進んで書くようになる
単元の開発

都小国研顧問 安達 知子先生

H (午前) 子供が主体的に読み深
める説明文の単元づくり

都小国研参与 斉藤とも子先生

H (午後) 読書感想文や物語文、
随筆などの書き方と指導の工夫

都小国研顧問 田中 延男先生

I (午前) 意見文や論理的文章の
書き方と指導の工夫

都小国研参与 福永 睦子先生

I (午後) 子供が主体的に読み深
める物語文の単元づくり

都小国研参与 廣田 経夫先生

J (午前) 読書とつなげた読むこ
との授業の工夫

都小国研顧問 村越 正則先生

J (午後) 子供の発言の整理・分
類の仕方

都小国研顧問 井出 一雄先生

四 感想及び要望

研修内容については、九割以上
の参加者から大変満足、満足とい
う回答を得た。講義や演習、実践
報告は、二学期に早速生かせるよ
い内容であった。一方、領域の組
み合わせや対象の明示等について
要望が寄せられた。

最後に、ご協力いただいた講師
の先生方、実践報告者の皆様に関
心より感謝申し上げます。

平成二十七年 都小国研

多摩地区総会・研究大会報告

副会長 悴田 康之

多摩地区研究会では、例年、都小国研総会後、多摩地区の総会・研究大会を開催している。

平成二十七年度は、六月五日（金）、福生市立福生第五小学校を会場にして行った。

一 多摩地区総会

都小国研の遠藤真司前会長をはじめ、本会の諸先輩方も多数ご参加の中、議事を円滑に進行することができた。

・平成二十六年度の研究主題に沿った各研究部月例会や研究授業等の研究活動、普及啓発活動としての「多摩まなび塾」の開催等についての報告

・平成二十七年役員承認、新会長・役員挨拶

・都小国研の研究主題「未来を拓く国語教育の創造―思考力・表現力及び探求力が育つ言語活動の充実―」に沿った多摩地区における研究活動の計画についての提案

・承認

平成二十七年度は、各研究部において、都小国研の研究主題・副主題を具体化するよう研究を進め、多摩地区各支部に還元することを確認した。

二 研究大会

(一)前年度の東京都教育研究員による授業公開

平成二十六年度の東京都教育研究員であった福生市立福生第五小学校の拝原奈穂実主任教諭が研究成果を生かし、研究授業「教えるよ！楽しいむかし遊び(教材名)「こまを楽しむ」光村図書」(第三学年)を行った。

単元を貫く言語活動「リーフレット作り」の設定、学習過程や評価の工夫、そして、比較・関連付けて読ませるための工夫を通して読む力・表現する力を付ける授業の提案がなされた。

(二)支部の研究発表(福生支部)

毎年、多摩地区支部の研究発表を行っている。今年度は、福生市立学校教育研究会小学校国語部会が発表した。

福生支部では、書くことに関する児童の実態などから、「主体的に書くことのできる児童」を育成したいと考えた。そこで、「主体

的に考え判断し表現する児童の育成―小中九年間の連続性を意識して―」を研究主題として、九年間の発達段階を踏まえた指導の系統表を作成し、「書くこと」の各過程における指導の在り方について、授業研究を通して研究を進めている。

(三)指導・講評

都小国研前会長の遠藤真司先生からは、様々な視点から貴重なご指導、ご助言をいただいた。

・本日の授業は、教師の指導がよく、子どもたちも力があつた。

・文章の字面を読むだけでなく、生活経験とつなげる、実物を取り入れるなどして、読みを深めさせることが大事である。

・これからの学習では、自分から進んで取り組む学習、友達と協力し合う学習により身に付けた力を、課題解決に生かすようにさせたい。

三 研究計画
都小国研では、今年度より部会名を改めたため、多摩地区研究会も同様に変更した。

〈話すこと・聞くこと部〉
定例会…毎月一回

研究授業…年一回

月 日…二月二日(火)第二学年

会 場…西東京市立けやき小学校

授業者…山地 智美 教諭

講師…邑上 裕子 先生

(元都小国研顧問)

〈読むこと部〉

定例会…毎月一回

研究授業…年一回

月 日…十二月三日(木)第五学年

会 場…青梅市立第二小学校

授業者…松井 優子 指導教諭

講師…井出 一雄 先生

(元都小国研顧問)

〈書くこと部〉

定例会…毎月一回

研究授業…年一回

月 日…一月二十六日(火)第二学年

会 場…小金井市立南小学校

授業者…後藤 夏美 教諭

講師…安達 知子 先生

(元都小国研顧問)

〈言語文化部〉(休部中)

再開に向けて努力している。

四 第七回多摩まなび塾

日時…十月三十一日(土)

午前九時十五分～正午

会場…昭島市立中神小学校

内容…三領域と伝統的な言語文化の指導に関する四講座

支部だより

台東支部

「児童に『主体的に読む力』を
つけさせる指導の工夫」を

本支部では、「読むこと」の領域で、児童が主体的に学ぶことができる指導法の工夫について、実践的研究に取り組んでいます。年間三回の研究授業で、授業者はねらいに沿った指導の工夫に挑戦し、部員は、グループ討議や講師の指導を受けることで学び合います。

月一回の部会では、実践報告や研修会を行っています。今年度は、「単元を貫く言語活動」について学び、学習過程や指導法の改善、教材開発などを積極的に進めています。「読むこと」の指導に欠かせない読書指導の充実を図るため実技研修等も取り入れました。

年度末の全体発表会で、他の研究部にも活用していただけるような実践報告や演習も行っています。

【今年度の研究・研修の概要】

○研究授業三回

(六月・十月・十二月)

○書写実技研修 (八月)

○研修会「単元を貫く言語活動について」 (七月)

○ブックトーク研修会 (十一月)

○読書感想文コンクール審査

○書写連合作品展 (十月)

○研究発表会 (二月)

○研究発表会 (二月)

東久留米支部

「自分の思いや考えを豊かに
表現できる児童の育成」

本市は国語部というものはありません。授業改善研究会という名称で各校から部員が集まり、国語の研究を進めているという部会です。部員は、各校の事情で配属されるため、必ずしも一定しないのが現状です。こうした状況の中、一年間の研究テーマの下、授業改善に取り組んでいます。

今年度の部員数は二十四名。小学校十三校ですから、およそ一校当たり二人の所属です。

一 本年度の研究

昨年度のテーマを引継ぎ、読み取りを元にしなが「表現する力」

に目を向けた研究をしています。サブテーマを『表現させる場をいかに確保し指導するか』と定めて、研究を焦点化しました。

表現させるには、表現させる内容が必要。そして、その場が必要であると考えました。それらを授業の中で位置付けていくことが重要であるとの思いから、こうしたテーマ、及びサブテーマを定めての研究としました。

研究授業は年間三回実施します。一回目は七月、二回目は十一月、最後は十二月に行います。

例年、講師には東京都練馬区立光が丘夏の雲小学校の遠藤真司校長先生をお迎えして、ご指導いただいています。

二 研究発表

授業改善研究会は、毎年三〜四教科ずつ順番に研究発表会を行っています。国語部会は今年度発表の順番。二月に、市内小中学校教員が全員悉皆で集まります。

今年度の取組を基に、国語科の授業方法自ら確認し、さらに市内に広めることができるよう、研究に熱を入れています。

編集後記

今年度は、研究主題に「未来を拓く国語教育の創造―思考力・表現力及び探究力が育つ言語活動の充実」を掲げ、研究を進めています。

九回となる「まなび塾」は、猛暑の中でしたが、二百名を超える受講者を迎えて大盛會に終わりました。

単元づくりや指導法についての演習や講義、本会部員による実践報告は、参加された先生方にとって、児童が主体的意欲的学び、確かな言葉の力を実生活に生かすための授業改善につながる実り多い内容でした。

「まなび塾」の講座を参観し、そこで示された資料を読み返すと二十講座すべてに共通する単元づくりについての基本的な考え方を学ぶことができました。

単元学習を通して身に付いた力は、実生活に生きて働く力になっていくことがわかりました。各部会において精力的な研究が進められています。

今後は、二月の研究大会に向け、単元づくりを中核とした研究を目指していきます。

町田市立忠生第三小学校

校長 西久保 律子